

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花梨)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700468&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応の専門介護施設である。だが、近年は多くの利用者様が合併症を持って入所の方が増えて医療との繋がりが強い施設ともいえる。看護師を配置し日常保健管理に当たると共に、内科、精神科等の医療機関との連携も強化している。介護の面でも、毎週歯科医の訪問診療と共に口腔衛生管理等の介護予防にも力を入れている。そして、棟ごとに違った特徴があり棟ごとにレクリエーションや散歩をして利用者様には日常生活を送っていただいている。2ヶ月に1回は、棟ごとの交流もあり。誕生日会などの会ごとにはほぼ全員の利用者様が一つのホールに集まって全員でレクリエーションをしたりして交流を図っている。そして、各棟、季節ごとには季節にちなんだ壁飾り等を作り工作作業も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした田園風景の中、小学校と寄り添うように建てられ、平屋で門扉から玄関までのアプローチに季節の花がいっぱい植えられているおしゃれな外観のホームである。ホーム開設から9年が経ち、県内グループホーム事業所の中心的な役割をはたしており、利用者の多様なニーズにも柔軟に対応出来る体制がある。専門医、精神医、内科医の協力医療機関との連携も良く、ホームとして看護師の配置があり、早期発見・治療に繋げている。利用者の身体機能にあった支援ができるよう、現在、機械浴の増設工事中であり、重度化に向けても積極的に努力している。終の棲家として利用者・家族にとって安心できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(花梨)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	手をだすな・口をだすな・見落とすな このフレーズの持つ意味を理念として創設時から大切にしている。過剰サービスは利用者の自立心の向上を阻害するものと考えている。	「手をだすな、口をだすな、見落とすな」がホーム理念である。過剰な介護サービスが利用者の自立心、身体機能にどう影響するかを全職員は理解している。毎日の朝礼や毎月の職員会議時には事例を取り上げて確認し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の代表の方とお話をさせていただく機会を設けており地域での行事等のお誘いを受け積極的に参加している。	地域自治会に加入し、地域行事や子ども会行事には積極的に参加している。ホームとしても夏祭りへの参加を呼び掛け努力している。隣接する小学校には職員が、地域団体の代表として卒業式や運動会への招待を受け、参加するなど交流を深めている。	以前は中学生の社会見学や体験学習などの受け入れがあったが、現在は途切れているため、ホームとして子ども達と触れ合う場面作りを工夫されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの入居相談や講演等を行っている。運営推進会議では、地域老人会等で認知症家庭介護の相談にも対応していることをPRしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動報告や今後の予定、目標等を地域の方に知って頂き協力見守りをお願いしている。10月の会議には消防署員にも参加して頂いた。	2ヶ月に1回開催され、行政、自治会長、民生委員、老人クラブ、家族代表、利用者等が参加している。今回は、消防署員の参加があり、火災事故における注意事項や消火機器の取り扱いの指導が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課や広域連合、在宅支援センター等との協力体制は出来ており情報の共有に努めている。	生活保護や家族関係に問題のある人など、困難事例への対応において、行政とは日頃から密に連携を取っている。また、広域連合、在宅支援センターからの入居状況等の情報の共有にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、虐待へと進展しかねないものであり、必要最小限度にとどめる努力をしている。万が一やむを得ない場合は本人及び家族に説明し文書にて同意を得ている。	身体拘束については外部研修にも参加し、回覧や職員会議で研修内容を共有している。現在は車椅子の安全ベルト、ベッドの4点柵、夜間他室侵入の恐れのある人に対する一時的な施錠の拘束を、家族の同意を得た上でやっている。	安全や危機管理のための拘束とはいえ、利用者への影響はあるため、排除に向けた取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修をや講演会に積極的に参加し職員への勉強会を持ち意識付けを行っている。また虐待に当たる行為が無意識下で行われていないかどうか見直している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種勉強会や講演会には積極的に参加している。本年4月には成年後見人登記を支援し、現時点でも一名が申請中であり支援をしている実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から契約内容は説明するが、本契約時には逐条毎に読み上げ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族からの要望は最大限傾聴しサービスに反映できるよう努めている。本人の入退院時の介助など要望が多い。	家族会があり、ホームに対する家族の意見が出しやすい仕組みがあるが、現状、限られた家族の参加となっている。家族間での温度差はあるが、ホーム側から積極的に働きかけ、家族や利用者の要望に応える努力がされている。	1人でも多くの家族が家族会に参加でき、家族の意見を出してもらうためにも、日程調整など工夫した取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や設備の整備等職員の意見を反映させている。本年度は介護職員の要請により特浴の設置をする事となった。	利用者にとって不備な場所等の改善意見も気楽に発言できる環境にある。身体面での重度化に向け、利用者や職員の負担に配慮し、機械浴槽の設置工事が進行中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年から特定退職金共済制度に加入し、退職金の安定支給に寄与できるようにスタートさせた。前項の特浴室も腰痛予防になり職場環境改善の一環としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ研修内容を選び積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	:県内同業者団体であるNPO岐阜県GH協議会の創設時(H13年)からかわり県内一円の事業者と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人面談を行い家族、本人の要望等に耳を傾け、内容はサービス提供者会議に反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族構成等の把握、家族それぞれの事情や思い等にも耳を傾け家族の相談にも応じ家族との人間関係の形成にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行いスムーズな介護の提供が出来るように努めている。また必要であれば在宅支援センターや、医療機関等にも働きかけ情報提供をお願いしより必要な介護が提供できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの個性や性格、身体能力等に合わせた介護の提供に心がけている。一緒に笑い、怒り、不安を受け止められるような人間関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い家族の置かれている立場や不安、相談に協力して家族の求めた介護が出来るように努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な面会時間は設けていない。自由に気楽に訪問して頂けるように心がけている。また近所の方や友人等の面会を家族が拒否している場合には家族の意向を尊重しお断りしていることもある。	利用者個々に対する馴染みの場所への外出支援は実現出来ていないが、外出の際に遠回りして墓参りに行ったり、帰宅要求の強い人に対し自宅に同行するなどの支援はある。同級生や馴染みの人の面会はホームとしても歓迎し、年賀状や暑中見舞いを送るなど、関係継続に向けた努力が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係等に配慮している。認知症が重度化してきている為特に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関等への移行時には情報提供を行いサービスの継続が出来るように配慮している。また、退去後も経過の把握が出来るように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者のそれぞれの希望や意向を伺い又は推測し、本人にとってなにかがベターかを議論し援助できるように努めている。	利用者との会話の糸口を見出すため、話題の提供に努めている。日々のケアを通し、会話や表情、仕草から、一人ひとりの希望や意向を把握し、全職員で共有し支援している。利用者が安心して話す事が出来る雰囲気づくりや質問の仕方、声の大きさにも工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の事前訪問時にアナムネをとり情報を収集している。その情報を頭に入れたうえでご本人に接することで混乱を防ぐ努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの家庭生活の状況や家族との関係、前施設や医療機関等から情報提供を受けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをセンター方式からひもときネットへと移行しようとしている。いかに本人の希望や状況の把握が出来、家族や本人の希望を計画に反映させる為に勉強中である。状態の変化や目標設定、有効期限に反映させ検討している。	介護記録や職員の個人記録をもとに、介護職員・医師・看護師・介護支援専門員等で検討の上、利用者・家族の要望や意向を踏まえ、現状に合った介護目標や課題が織り込まれた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な事項を的確に記入するように指導している。特に普段と違う事柄や表情、気づきや変化等を中心に記録し必要であれば重症記録等に切り替え記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等に出来るだけ対応できるように配慮している。医療依存度の高い利用者の対応にも努力をしている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員を始め役場や自治会長、老人会会長など身近な方々の参加を得て運営し協力して頂けるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医の継続をすすめており家族の協力を得てリハビリや皮膚科等の通院を行っている。現在皮膚科に受診されている方もある。 家族の協力が難しく継続が困難時は連携のクリニック、歯科、精神科の訪診にて援助を行っている。	ほとんどの利用者は、協力医療機関による月2回の往診を受けているが、家族の協力によるかかりつけ医への受診を継続している人もある。専門医への受診は、基本的に家族に依頼するが、やむを得ない場合はホーム職員の同行支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り入居者の状態や家族構成等すべてを把握している。また夜勤もやっている為より適切なアドバイスが出来、医師との橋渡しも効果的に出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病院の相談員や家族とも連絡を密にとるようにしている。また、家族よりの相談や退院等の際には病院側からの情報提供や本人確認にも出向き、より適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアにも取り組みより早い段階から家族との話し合いに努めている。家族の希望を出来るだけかなえるため医師にも家族の意向を伝え協力を得ている。	重度化や終末期に向けた対応については、入居時に、ホームの方針を十分説明している。看護師の配置もあり、現在は胃ろう造設者4名をケアし、過去には看取りの経験もある。状況を見ながら、利用者・家族・医療関係者等で、ホームで出来る事・出来ない事を十分話し合い、適切な支援が選択されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応に配慮している。救急対応が出来るように指導研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し消防署の指導を受けている。今回も夜勤時の2人態勢での火災発生を想定し訓練を行った。また煙体験を実施し実際の煙の流れなど身を持って体験した。地域の方々にも協力を得るために運営推進会議に消防署より参加をお願いした。今後は通報装置を設置予定。	年2回の避難訓練を実施し、全職員に避難方法や避難場所等も周知徹底され、スプリンクラーや通報装置の設置も予定されている。前回の運営推進会議で消防署員から、消防の指導を受け、災害時の役割など具体的な内容が話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの希望を尊重しつつ支援するように努めている。意思表示の困難な方には情報収集や表情変化などを参考に支援している。	日頃から、会議の度に、言葉かけや無意識に取った言動が、利用者を傷つける場合もある事などを、話題にして話し合っている。トイレ誘導なども、目配り・気配りのなかで、人格を尊重した対応が徹底されている。	各ユニットに2ヶ所のトイレがあり、車椅子でも使える広いトイレは、2人使用であるが、入り口の引き戸を開けると、2つのトイレ間の区切りだけで遮るものがなく、ホームとしての試行錯誤の跡もあるが、さらなる工夫に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の重度化により自分の思いや希望を表現する事が難しい方が多くなってきた。職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがその他は特に決まったものは無くそれぞれのペースで生活できるように配慮している。ただ認知症の重度化によりほとんどの時間は職員とともにロビーで過ごされてるのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理髪援助や毛染めの援助。誕生会や行事等特別のときには化粧の援助やマニキュアの支援なども行い身だしなみにも配慮できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用してリクエストなどを聞き献立に活かすようにしている。配膳、下膳等は能力に合わせ声かけを行っている。	食事は、品数や量も多く、食材もホームで育てた野菜を使い、利用者の嗜好に合わせ調理している。献立は各ユニットごとでたてられている。利用者は皆、満足の笑顔で、楽しく食事をし、職員は食事介助や食事の意見を聞きながら見守っている。食後は、能力に合わせ、個々に下膳したりと、様々である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は特段には行っていないがタンパク質やでんぷん質、脂質等が偏らないように配慮してメニューを作っている。嚥下能力により刻みやミキサーにする等形態の工夫と食べられる量を把握し記録している。栄養補助剤の併用も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。自分で行える方には声かけを介助の必要な方には能力に合わせた援助を行っている。また入れ歯の洗浄は職員で管理し歯科医師の訪問診察も定期的に受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせて全介助、一部介助や声かけ等を行いトイレでの排せつを促している。またオムツ使用者の入居者にも適切なオムツが使用できるように今年度もプロによるオムツ講習会を実施している。	排泄記録を活用し、排泄パターンを把握しており、日中はトイレ誘導を基本とし、夜間は安全面からオムツやポータブルトイレを活用している。適切なオムツの選択や個別に把握した誘導時間・交換回数を実施することで経費削減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為3日排便がなければ下剤、浣腸、座薬の使用等、個々にあった方法で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助の必要な入居者がほとんどである為曜日と時間帯は決めている。	基本は週2回の入浴を行っているが、希望により毎日入浴する利用者もある。ほぼ全員が好んで入浴しており、季節感を味わえるゆず湯、菖蒲湯も実施されている。利用者の能力に応じてリフト浴の設置もあるが、さらなる重度化に対応して早期に機械浴を導入するため、現在工事中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの異なる生活パターンを生かせるように配慮している。車いすの方は一日中車いすに座っている事は身体的負担が多いと考え昼食後にはベットで休息をとる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は2人でおこない誤薬の防止に努めている。食前薬や週1回の内服薬に関しては張り出すようにして投薬忘れの防止に努めている。また薬の変更時には現われるであろう副作用に対して説明をし見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クリスマスや花見、運動会などの年中行事は積極的に計画をするようにしている。洗濯物たたみや花の水やりなど日課として責任を持ってやって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人個別の外出に職員が同行することはなかなか難しく出来ていないが、買い物の支援や家族への働きかけにより個々それぞれの希望に添えるように援助している。	利用者の健康状態や天候等に考慮し、日常はホーム周辺を散歩する事が多い。月2回の喫茶店への外出は利用者の楽しみでもある。桜・百合・紅葉など四季を楽しむ外出は、ホームとして、全員で出掛けることもある。	

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て小額のお金を所持されている方もあるが盗難等のトラブルのもととなる最低限にとどめ施設側で管理している。外出時や本人希望時には手渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いなど家族あてに作成し送付される方もある。利用者専用電話は設置していないが希望があれば職員が援助をしてお話して頂く事も出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーにはソファを設置し入居者同士が気兼ねなくお話しできるような空間作りに配慮している。また車いすの方も多くスペースの確保もしている。こたつを置いていた時期もあったがつまずく方が多く危険な為現在は使用していない。	共用空間は、日当たりが良く、廊下の幅も広く、大きな座り心地の良い椅子が置かれ、季節の花が飾られ、利用者と職員で作上げた作品が掲示されている。利用者は、ゆったり過ごすことができるため、昼間は居室ではなく、居間で過ごす人も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で独りで過ごす時間を作っていたり、ホールでも所定の位置があり横になったりテレビを見たりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物等は持ってきて頂けるようにご家族には説明しているが限られたスペースの中の為配慮はして頂いている。	居室はコンパクトではあるが、日当たり・風通しも良く、掃除は行き届いている。ベッド・小型の洋服ダンス・整理ダンスが設置されており、自宅からテレビやソファが持ち込まれ、落ち着いた個性ある居室である。	ベッドサイドにポータブルトイレが置かれているが、夜間に使用するのであれば、昼間はカバーをかけるなど、目につかない工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きの方の為に手すりの設置している。また車いすの方が多く入居されている為空間の確保にも努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(樫の木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(檜の木)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	手をだすな・口をだすな・見落とすな このフレーズの持つ意味を理念として創設時から大切にしている。過剰サービスは利用者の自立心の向上を阻害するものと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の代表の方とお話をさせていただく機会を設けており地域での行事等のお誘いを受け積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの入居相談や講演等を行っている。運営推進会議では、地域老人会等で認知症家庭介護の相談にも対応していることをPRしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動報告や今後の予定、目標等を地域の方に向けて頂き協力見守りをお願いしている。10月の会議には消防署員にも参加して頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課や広域連合、在宅支援センター等との協力体制は出来ており情報の共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、虐待へと進展しかねないものであり、必要最小限度にとどめる努力をしている。万が一やむを得ない場合は本人及び家族に説明し文書にて同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修や講演会に積極的に参加し職員への勉強会を持ち意識付けを行っている。また虐待に当たる行為が無意識下で行われていないかどうか見直している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種勉強会や講演会には積極的に参加している。本年4月には成年後見人登記を支援し、現時点でも一名が申請中であり支援をしている実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から契約内容は説明するが、本契約時には逐条毎に読み上げ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族からの要望は最大限傾聴しサービスに反映できるよう努めている。本人の入退院時の介助など要望が多い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や設備の整備等職員の意見を反映させている。本年度は介護職員の要請により特浴の設置をする事となった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年から特定退職金共済制度に加入し、退職金の安定支給に寄与できるようにスタートさせた。前項の特浴室も腰痛予防になり職場環境改善の一環としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ研修内容を選び積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内同業者団体であるNPO岐阜県GH協議会の創設時(H13年)からかわり県内一円の事業者と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人面談を行い家族、本人の要望等に耳を傾け、内容はサービス提供者会議に反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族構成等の把握、家族それぞれの事情や思い等にも耳を傾け家族の相談にも応じ家族との人間関係の形成にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行いスムーズな介護の提供が出来るように努めている。また必要であれば在宅支援センターや、医療機関等にも働きかけ情報提供をお願いしより必要な介護が提供できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの個性や性格、身体能力等に合わせた介護の提供に心がけている。一緒に笑い、怒り、不安を受け止められるような人間関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い家族の置かれている立場や不安、相談に協力して家族の求める介護が出来るように努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な面会時間は設けていない。自由に気楽に訪問して頂けるように心がけている。また近所の方や友人等の面会を家族が拒否している場合には家族の意向を尊重しお断りしていることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関等への移行時には情報提供を行いサービスの継続が出来るように配慮している。また、退去後も経過の把握が出来るように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者のそれぞれの希望や意向を伺い又は推測し、本人にとってなにかベターかを議論し援助できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の事前訪問時にアナムネをとり情報を収集している。その情報を頭に入れたうえでご本人に接することで混乱を防ぐ努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの家庭生活の状況や家族との関係、前施設や医療機関等から情報提供を受けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをセンター方式からひもときネットへと移行しようとしている。いかに本人の希望や状況の把握が出来、家族や本人の希望を計画に反映させる為に勉強中である。状態の変化や目標設定、有効期限に反映させ検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な事項を的確に記入するように指導している。特に普段と違う事柄や表情、気づきや変化等を中心に記録し必要であれば重症記録等に切り替え記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等に出来るだけ対応できるように配慮している。医療依存度の高い利用者の対応にも努力をしている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員を始め役場や自治会長、老人会会長など身近な方々の参加を得て運営し協力して頂けるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医の継続をすすめており家族の協力を得てリハビリや皮膚科等の通院を行っている。家族の協力が難しく継続が困難時は連携のクリニック、歯科、精神科の訪問にて援助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り入居者の状態や家族構成等すべてを把握している。また夜勤もやっている為より適切なアドバイスが出来、医師との橋渡しも効果的に出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病院の相談員や家族とも連絡を密にとるようにしている。また、家族よりの相談や退院等の際には病院側からの情報提供や本人確認にも出向き、より適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアにも取り組みより早い段階から家族との話し合いに努めている。家族の希望を出来るだけかなえるため医師にも家族の意向を伝え協力を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応に配慮している。救急対応が出来るように指導研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し消防署の指導を受けている。今回も夜勤時の2人態勢での火災発生を想定し訓練を行った。また煙体験を実施し実際の煙の流れなど身を持って体験した。地域の方々にも協力を得るために運営推進会議に消防署より参加をお願いした。今後は通報装置を設置予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの希望を尊重しつつ支援するように努めている。意思表示の困難な方には情報収集や表情変化などを参考に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の重度化より自分の思いや希望を表現する事が難しい方が多くなってきた。職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがその他は特に決まったものは無くそれぞれのペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理髪援助や毛染めの援助。誕生会や行事等特別のときには化粧の援助やマニキュアの支援なども行い身だしなみにも配慮できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用してリクエストなどを聞き献立に活かすようにしている。配膳、下膳等は能力に合わせ声かけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は特段には行っていないがタンパク質やでんぷん質、脂質等が偏らないように配慮してメニューを作っている。嚥下能力により刻みやミキサーにする等形態の工夫と食べられる量を把握し記録している。栄養補助剤の併用も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。自分で行える方には声かけを介助の必要な方には能力に合わせた援助を行っている。また入れ歯の洗浄は職員で管理し歯科医師の訪問診察も定期的に受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせて全介助、一部介助や声かけ等を行いトイレでの排せつを促している。またオムツ使用者の入居者にも適切なオムツが使用できるように今年度もプロによるオムツ講習会を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為3日排便がなければ下剤、浣腸、座薬の使用等、個々にあった方法で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助の必要な入居者がほとんどである為曜日と時間帯は決めている。ただし自己にて入浴可能な方は毎日ご自分たちで順番を話し合って入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの異なる生活パターンを生かせるように配慮している。車いすの方は一日中車いすに座っている事は身体的負担が多いと考え昼食後にはベットで休息をとる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は2人でおこない誤薬の防止に努めている。食前薬や週1回の内服薬に関しては張り出すようにして投薬忘れの防止に努めている。また薬の変更時には現われるであろう副作用に対して説明をし見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クリスマスや花見、運動会などの年中行事は積極的に計画をするようにしている。洗濯物たたみや花の水やりなど日課として責任を持ってやって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人個別の外出に職員が同行することはなかなか難しく出来ていないが、買い物の支援や家族への働きかけにより個々それぞれの希望に添えるように援助している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て小額のお金を所持されている方もあるが盗難等のトラブルのもととなる最低限にとどめ施設側で管理している。外出時や本人希望時には手渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いなど家族あてに作成し送付される方もある。利用者専用電話は設置していないが希望があれば職員が援助をしてお話して頂く事も出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーにはソファを設置し入居者同士が気兼ねなくお話しできるような空間作りに配慮している。また車いすの方も多くスペースの確保もしている。こたつを置いていた時期もあったがつまりく方が多く危険な為現在は使用していない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で独りで過ごす時間を作っていたり、ホールでも所定の位置があり横になったりテレビを見たりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物等は持ってきて頂けるようにご家族には説明しているが限られたスペースの中の為配慮はして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きの方の為に手すりの設置、車椅子の方が独りでもトイレに行けるようにトイレの扉をアコーディオンに変更している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花水木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(花水木)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	手をだすな・口をだすな・見落とすな このフレーズの持つ意味を理念として創設時から大切にしている。過剰サービスは利用者の自立心の向上を阻害するものと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の代表の方とお話をさせていただく機会を設けており地域での行事等のお誘いを受け積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの入居相談や講演等を行っている。運営推進会議では、地域老人会等で認知症家庭介護の相談にも対応していることをPRしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動報告や今後の予定、目標等を地域の方に知って頂き協力見守りをお願いしている。10月の会議には消防署員にも参加して頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や広域連合、在宅支援センター等との協力体制は出来ており情報の共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、虐待へと進展しかねないものであり、必要最小限度にとどめる努力をしている。万が一やむを得ない場合は本人及び家族に説明し文書にて同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修をや講演会に積極的に参加し職員への勉強会を持ち意識付けを行っている。また虐待に当たる行為が無意識下で行われていないかどうか見直している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種勉強会や講演会には積極的に参加している。本年4月には成年後見人登記を支援し、現時点でも一名が申請中であり支援をしている実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から契約内容は説明するが、本契約時には逐条毎に読み上げ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族からの要望は最大限傾聴しサービスに反映できるよう努めている。本人の入退院時の介助など要望が多い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や設備の整備等職員の意見を反映させている。本年度は介護職員の要請により特浴の設置をする事となった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年から特定退職金共済制度に加入し、退職金の安定支給に寄与できるようにスタートさせた。前項の特浴室も腰痛予防になり職場環境改善の一環としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ研修内容を選び積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内同業者団体であるNPO岐阜県GH協議会の創設時(H13年)からかわり県内一円の事業者と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人面談を行い家族、本人の要望等に耳を傾け、内容はサービス提供者会議に反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族構成等の把握、家族それぞれの事情や思い等にも耳を傾け家族の相談にも応じ家族との人間関係の形成にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行いスムーズな介護の提供が出来るように努めている。また必要であれば在宅支援センターや、医療機関等にも働きかけ情報提供をお願いしより必要な介護が提供できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの個性や性格、身体能力等に合わせた介護の提供に心がけている。一緒に笑い、怒り、不安を受け止められるような人間関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い家族の置かれている立場や不安、相談に協力して家族の求める介護が出来るように努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な面会時間は設けていない。自由に気楽に訪問して頂けるように心がけている。また近所の方や友人等の面会を家族が拒否している場合には家族の意向を尊重しお断りしていることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係等に配慮している。職員が注意をしても人間関係の問題等が出現する時には棟変更を行い対応することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関等への移行時には情報提供を行いサービスの継続が出来るように配慮している。また、退去後も経過の把握が出来るように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者のそれぞれの希望や意向を伺い又は推測し、本人にとってなにかベターかを議論し援助できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の事前訪問時にアナムネをとり情報を収集している。その情報を頭に入れたうえでご本人に接することで混乱を防ぐ努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの家庭生活の状況や家族との関係、前施設や医療機関等から情報提供を受けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをセンター方式からひもときネットへと移行しようとしている。いかに本人の希望や状況の把握が出来、家族や本人の希望を計画に反映させる為に勉強中である。状態の変化や目標設定、有効期限に反映させ検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な事項を的確に記入するように指導している。特に普段と違う事柄や表情、気づきや変化等を中心に記録し必要であれば重症記録等に切り替え記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等に出来るだけ対応できるように配慮している。医療依存度の高い利用者の対応にも努力をしている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員を始め役場や自治会長、老人会会長など身近な方々の参加を得て運営し協力して頂けるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医の継続をすすめており家族の協力を得てリハビリや皮膚科等の通院を行っている。現在も2週間に一度リハビリに通っておられる方がある。家族の協力が難しく継続が困難時は連携のクリニック、歯科、精神科の訪診にて援助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り入居者の状態や家族構成等すべてを把握している。また夜勤もやっている為より適切なアドバイスが出来、医師との橋渡しも効果的に出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病院の相談員や家族とも連絡を密にとるようにしている。また、家族よりの相談や退院等の際には病院側からの情報提供や本人確認にも出向き、より適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアにも取り組みより早い段階から家族との話し合いに努めている。家族の希望を出来るだけかなえるため医師にも家族の意向を伝え協力を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応に配慮している。救急対応が出来るように指導研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し消防署の指導を受けている。今回も夜勤時の2人態勢での火災発生を想定し訓練を行った。また煙体験を実施し実際の煙の流れなど身を持って体験した。地域の方々にも協力を得るために運営推進会議に消防署より参加をお願いした。今後は通報装置を設置予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの希望を尊重しつつ支援するように努めている。意思表示の困難な方には情報収集や表情変化などを参考に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の重度化より自分の思いや希望を表現する事が難しい方が多くなってきた。職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがその他は特に決まったものは無くそれぞれのペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理髪援助や毛染めの援助。誕生会や行事等特別のときには化粧の援助やマニキュアの支援なども行い身だしなみにも配慮できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用してリクエストなどを聞き献立に活かすようにしている。配膳、下膳等は能力に合わせ声かけを行っている。お皿洗いも可能な方にはやって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は特段には行っていないがタンパク質やでんぷん、脂質等が偏らないように配慮してメニューを作っている。嚥下能力により刻みやミキサーにする等形態の工夫と食べられる量を把握し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。自分で行える方には声かけを介助の必要な方には能力に合わせた援助を行っている。また入れ歯の洗浄は職員で管理し歯科医師の訪問診察も定期的に受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせて全介助、一部介助や声かけ等を行いトイレでの排せつを促している。またオムツ使用者の入居者にも適切なオムツが使用できるように今年度もプロによるオムツ講習会を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為3日排便がなければ下剤、浣腸、座薬の使用等、個々にあった方法で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助の必要な入居者がほとんどである為曜日と時間帯は決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの異なる生活パターンを生かせるように配慮している。車いすの方は一日中車いすに座っている事は身体的負担が多いと考え昼食後にはベットで休息をとる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は2人でおこない誤薬の防止に努めている。食前薬や週1回の内服薬に関しては張り出すようにして投薬忘れの防止に努めている。また薬の変更時には現われるであろう副作用に対して説明をし見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クリスマスや花見、運動会などの年中行事は積極的に計画をするようにしている。洗濯物たたみや花の水やりなど日課として責任を持ってやって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人個別の外出に職員が同行することはなかなか難しく出来ていないが、買い物の支援や家族への働きかけにより個々それぞれの希望に添えるように援助している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て小額のお金を所持されている方もあるが盗難等のトラブルのもととなる最低限にとどめ施設側で管理している。外出時や本人希望時には手渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いなど家族あてに作成し送付される方もある。利用者専用電話は設置していないが希望があれば職員が援助をしてお話して頂く事も出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーにはソファを設置し入居者同士が気兼ねなくお話しできるような空間作りに配慮している。また車いすの方も多くスペースの確保もしている。こたつを置いていた時期もあったがつまづく方が多く危険な為現在は使用していない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で独りで過ごす時間を作っていたり、ホールでも所定の位置があり横になったりテレビを見たりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物等は持ってきて頂けるようにご家族には説明しているが限られたスペースの中の為配慮はして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きの方の為に手すりの設置をしている。杖歩行の為に障害物の除去や能力に合わせた居室の配置も可能な限り配慮している。		